

環境出前講座について

吉牟田博子、木原幸喜、松本高次

要旨

環境センターでは、前身の公害センター発足当時から、環境週間や環境月間行事として、環境センター一般公開や環境教室を開催して、県民への環境保全意識醸成を図ってきた。

平成 17 年度からは、企画・情報課を設置したこともあり、環境センター職員が学校等に出向き、水質、大気等の実験や河川等の水生生物調査の体験型学習を通して、環境配慮への意識醸成を推進する環境出前講座を実施している。今回、7 年間の実施状況をまとめたので報告する。

キーワード：出前講座、環境教育

はじめに

佐賀県は佐賀県環境基本条例第 19 条で、事業者及び県民が環境の保全についての理解を深めると共に環境保全に関する活動を行う意欲が増進されるようにするため必要な措置を講じることとしている。

平成 23 年度は環境教育等促進法が改正され、環境保全活動や、行政・企業・民間団体等の協働が法の目的に盛り込まれた。更に、新たな佐賀県環境基本計画に環境教育のできる人材の育成と活用が盛り込まれたところでもあった。

これらの背景のもと、平成 24 年度の「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」として、環境教育コンソーシアム構築事業が採択された。これは、「佐賀県新しい公共支援基金」を活用して、環境関連の活動をしている NPO などからなる共同体が実施する環境教育のための学習プログラム、教材、人材を集積することで、誰もが利用できる環境教育支援体制の構築を図るものである。

環境センターとしても、体験を通じた実践学習である環境出前講座は好評を得ていたが、反面、人的な問題で限界もあった。

そこで、採択された環境教育コンソーシアム構築事業では、平成 24 年度に既存の学習プログラムの収集・整理、生態系の変化など今日的な課題に対応できる新たなプログラムの開発、教材の整備、人材育成システムづくりなど、共同体の基盤整備づくりを行う予定である。

新たな環境教育を実施するにあたり、7 年間の環境出前講座の実施状況をまとめた。

概要

1. 出前講座メニュー
平成 23 年度環境出前講座のメニューを表 1 に示す。実際に要望が多いのは、水質調査、水生生物調査であった。
2. 出前講座募集方法
各年度初めに、市町や関係機関に環境出前講座の申込を募り、日程を調整して実施している。再度、教育委員会を通じて、小学校等へ周知徹底を図り、需要の掘り起こしも実施している。

結果

1. 出前講座実施状況

平成17年度からの環境出前講座の実施状況を表2に示す。

表2に示すとおり、延べ参加人数も減少傾向である。これは、需要が少なくなったというより、供給側である環境センターの体制が需要に十分に対応できなくなったことの要因が大きい状況であった。

また、例年同じ学校からの要望も多く、環境教育の指導者を育成する面の成果が得られていない状況もあった。

平成24年度からの環境教育コンソーシアム構築事業において、この環境出前講座メニューも既存の学習プログラムとして整備することとしている。

考察

地球規模の環境問題に対応するため、省資源・省エネルギーによる環境負荷の少ない循環型社会の実現が求められており、これまでの大量生産、大量消費、大量廃棄といった事業活動やライフスタイルを転換するために環境教育は欠かせないものである。

平成24年度事業において、体系的な学習プログラムや一定の知識を有する人材が整備され、それらを活用して、体験を通じた環境学習が広く実践されることを目指している。

文献

- 1) 佐賀県環境基本条例, H9,3,27 公布 H9,4,1 施行
- 2) 第2期佐賀県環境基本計画, H23,10,28 制定

表1 環境出前講座メニュー (平成23年度)

分野	講座名	対象	概要	学習内容	準備等
大気分野	自動車の排気ガス実験 (二酸化炭素または二酸化窒素を調べる)	<所要時間:約1校時分 対象:小学4年生以上、1クラス>	自動車の排気ガスを袋に採取して試薬の入った液に吹き込み、色の変化を観察したり、検知管を用いて成分ガスの濃度を調べる。(試薬の色の変化を観察:無色→赤紫色)	目に見えない空気中の汚染を試薬と反応して生じる色で知り、身の回りにおける大気汚染の発生を少なくする方法に目を向けさせる。	自動車の準備(教室近くの屋外)又はあらかじめ排気ガスを採取しておく。
	酸性雨測定実験(雨の酸性の程度(pH)を調べる)	<所要時間:約1校時分 対象:小学4年生以上、1クラス>	雨水に試薬を加えて色の変化を見たり、簡単なpH計を用いて酸性度を観察する。	普段降っている雨が、場所や時期によって酸性度が強くなることがあることを知り、原因等を考える。	あらかじめ校内外で雨を採取しておく。
水質分野	水生生物調査	<所要時間:約2校時分 対象:小学4年生以上、1クラス>	川底や石に付着して生息する昆虫の幼虫等水生生物の種類や数を調べ、その川の汚れの程度を判定する。	水生生物の生息状況がその水質と関連することから、身近な水環境の保全の大切さに気づく。	屋外での実験:・判定の指標となる生物が比較的多く生息しており、安全に採集できる河川が学校近辺にあることが必要。
	水質等調査	<所要時間:約1校時分 対象:小学4年生以上、1クラス>	川の水、家庭から出る生活排水等について、外観や透視度計で観察したり、化学的に汚れの量を調べる。	いろいろな水の検査結果を比べ、水の汚れの原因について考える。また、どうすれば身近な川をきれいに保つことができるか考える。	川の水質や採取地点の様子をあらかじめ調べておく。<あらかじめ採取した川の水を使うときは、採取時の安全確保を十分に行う。>
放射線分野	自然放射線の測定実験	<所要時間:約1校時分 対象:小学4年生以上>	放射線の測定器を使って、身の回りの放射線を測定する。	目に見えない自然界の放射線の存在と、測る場所・物によってその数値に違いがあること等を実感させる。	・放射線測定器「サーベイメータ」 ・測定したい物

表2 環境出前講座実施状況

年度	小学校	参加人員	中学校	参加人員	総参加人員	延べ回数
H17	14	577	3	45	622	
H18	14	956	2	128	1084	
H19	10	543	4	81	624	
H20	11	678	2	47	725	16
H21	12	583	1	17	600	14
H22	10	555	0	0	555	11
H23	11	472	0	0	472	11